

北九州マラソン2024

No.32 野村 高広

令和6年2月18日、標記大会に参加した。この大会の参加は7回目。通算21回目のフルマラソンとなった。

自転車事故で左右の脚の長さが異なってから、走ると脚への負担が大きく、持続可能なランナーとして走り続けるために、もう長い距離(フルマラソン)はこれを最後にしようと決めていた。しかし、2週間前に新型コロナウイルスに感染し、仕事復帰後も体調不良が続き、棄権やむなしとう状況で、大会当日の朝まで棄権しようか参加しようか迷っていた。

結局、当日走ることにした。しかし、この大会は20キロでスタート地点に戻ってくるので、10キロ走って10キロ歩いて、その後、棄権しようと考えていた。

スタートブロックに入ったときに、係員に炭治郎コスプレの刀を注意され、携帯して走ることを禁じられた。仕方なく刀なしで走るようになったが、刀を持たずに走るのは、とても走りやすかった(笑)。

スタートブロック内では、パトランのひよこスタイルのお姉さんたち、ルパン3世、鬼滅の刃の伊之助に話かけられた。私のコスプレ仲間たちだ。



さて、スタート後、ランナーが多くて、序盤は周りと同じスピード(キロ7分ぐらい)で走ったが、人がいなくても元々自分のマイペースはキロ7分ぐらい。そのスピードでも、5キロぐらいで苦しくなってくる。参加したことを少し後悔する。しかし、歩くにはまだ早い。

10キロを越えたら歩く計画であったが、その頃には、歩かずに20キロ走って棄権しよう!という計画に変更。なんとか走り続けることができた。

18キロぐらいで、こんな体調で、しかもこんなコスプレで走っていることがおかしくて、ニコニコしていたら、とても楽しくなってくる。「炭治郎!」「禰豆子!」と声援を送ってくれる人に笑顔で応えていたら、本当に楽しくなってくる。笑顔って、とても大切だなー、ということをしみじみと感じた。

小倉駅前の20キロ地点。本当はここで棄権する予定であったが、42キロを通じて、ここが最も調子が良かった。当然のごとく継続。

しかし、その絶好調も長く続かず、24キロ地点で急スピードダウン。キロ8分30秒まで落ちる。想定内とも言えるし、何度経験しても初心者のような走りしかできない(笑)。

後ろの走者にどんどん抜かされていくが、まだ、歩くほどもない。そして、この距離になると歩いている人が増え出すので、私がドンドン抜いていく。

30キロ地点が門司港の折り返しになるが、ここで、6時間ペースランナーと最後尾回収車がすぐ近くに迫っていることを知る。

ここ数年、終盤の10キロを走ったり歩いたりしながらなんとかゴールしてきたが、今回は少しでも歩いてしまうとゴールできないことに気付く。32キロ関門は残り5分前に通過し、36キロ関門は残り1分30秒前で通過。36キロ地点でとうとう6時間ペースランナーに抜かれ、しかもドンドン離されていく。歩かずに走り続けたとしても、40キロ関門に引かかってしまう。マラソン人生で初めて味わうあきらめムード。

38キロ地点。ゴールが近づいてきたことや、高校生のボランティアの声援が増え、ハイタッチをくり返しているといくらか元気になり、昭和の根性でなんとかペースを上げ、40キロ地点で6時間ペースランナーに追いつく！

残り、2キロの16分は楽しかった。苦しくて笑顔にはなれないけど、制限時間内にゴールできそうだという見通しは、心を明るくする。

そして、5時間59分44秒でゴール。最終ランナーにはならなかったが、ゴール後、後ろを振り返ったら、もうランナーは誰もいなかった。

人生最後のフルマラソン、終わってみればとても楽しかった！（来年も出るかも、笑）



↑「鬼滅の刃」の胡蝶しのぶ



↑「鬼滅の刃」の猗窩座



←目標タイム

大土さん撮影→

